

海つばめ

最終号

うみ - つばめ【海×燕】

ミズナギドリ目ウミツバメ科の海鳥の総称。コシジロウミツバメ・ハイイロウミツバメなど。全長14~25センチ。全体に黒褐色のものが多い。翼は長く、尾はツバメのように切れ込み、足指には水かきがある。繁殖期には小島に群集し、岩の裂け目や傾斜地に掘った穴に白い卵を1個産む。

Над седой равниной моря
ветер тучи собирает.
Между тучами и морем гордо
реет Буревестник,
черной молнии подобный.



海の灰色の平面を、風が風雲を集める。雲と海の間を、海燕が誇らしく飛ぶ、黒い稲妻のひらめきのように。
ゴーリキー「海燕の歌」より

目次

- ☞ 表紙 . . . 1
- ☞ 支部長からのメッセージ . . . 2
- ☞ 初代部長・最後の部長のメッセージ . . . 3
- ☞ 海つばめの軌跡 . . . 4~5
- ☞ 会員からの一言メッセージ . . . 6~7
- ☞ シニア・キャリアカウンセラー・インストラクター・
養成講座指導者の体験談 . . . 8~9
- ☞ ゲートキーパーについて . . . 10
- ☞ 支部総会・講演会 . . . 11
- ☞ 広報部スタッフ紹介・編集後記 . . . 12

東北支部会報誌 海つばめ 最終発行に寄せて

東北支部 支部長／末富 美貴

支部会員の皆様におかれましては、日頃の支部活動へのご協力誠にありがとうございます。
さて、2002年の春に創刊し、皆様にご愛顧いただいた支部会報誌 海つばめ は2024年8月の発行が最後となりますので、ご連絡させていただきます。

約22年の長きに渡り、支部活動の情報共有・情報発信のための媒体として、会員の皆様にご協力いただきながら発行してまいりました。発行当初は毎月発行、そして時を経て2か月に1度の発行、現在は半期に1度の発行となり、その理由として、支部ホームページ、支部メールマガジンに情報コミュニケーション手段が変わったということがあげられます。創刊当時はメールでのやり取りも、一部の会員様だけでしたが、今や多くの会員様がパソコンだけでなくスマートフォン等の電子機器の普及により、各段にリアルタイムでの情報コミュニケーションが可能となっており、養成講座においても課題提出が郵送やFAXからメール提出に変わり、カウンセラーとして「学ぶ」ことについても、当たり前メールの利用が必須となっております。海つばめは、情報コミュニケーションの「手段の変化」に伴い、その役目を終えることとなりました。

背景には、SDGsの拡大等、資源保全に対する意識の変化がございます。企業の社会的責任(CSR)としても無視できないものであり、多くの企業で「ペーパレス化」とともに「DX(デジタルトランスフォーメーション)化」が両輪で進められています。東北支部も例外ではなく、他企業・他組織同様、「公器の器」である一般社団法人としてペーパレス化を推進することで、企業としての対応を社会に示す必要がございます。産業カウンセラーとして、社会の変化に柔軟に対応しながら、産業現場に携わるクライアント様を支援することにおいても、より一層のデジタル対応が求められることと考えます。長らくご愛顧いただいた支部会報誌ですが、ここで終了させていただくことを、ご理解いただければ幸いです。

これまでを振り返ると、実に多くの会員の皆様取材・撮影のご許可をいただきました。改めて御礼を申し上げます。
また、お忙しい中、制作に携わった代々の広報部の皆様にも、御礼を申し上げます。東北支部黎明期に、多くの会員様のご協力を得られました事、誠に感謝しております。これからは、デジタルツールを用いての情報コミュニケーションが更に進みますが、分からない事やご不安な事は、支部にお問合せいただければと存じます。引き続き、支部へのご協力をどうぞよろしくお願い致します。



初刊から 85 号まで発刊に携わっていただきました皆様に感謝いたします。会員の皆様方、それぞれ募る思いをお持ちのことと思います。85 号で廃刊となり、次へつなげていけなくなったことは大変残念でなりません。歴代の広報部長はじめ部員の方々は、支部繁栄のため、会員への情報発信のために大変なご苦勞もあったのではないのでしょうか。

歴代の広報部員を代表し、初代広報部長に思いを寄せていただきました。



【海つばめに思いを託して 22 年】

東北支部 初代広報部長／遠藤 忠昭

今年 8 月にて海つばめの発行を終了、その役割を全面的にホームページにボタンタッチすること時代の流れを感じます。振り返りますと 2002 年・東北分会から東北支部に衣替えとなり、それに呼号し広報紙「海つばめ」がスタートしました。「海つばめ」の由来は、当時の広報部員、柿沼時子さんがロシアの作家マクシム・ゴーリキーの散文詩から「海燕は、雲と海の間を誇らしく飛ぶ・・・海の上を勇敢に自由に飛びまわる」から、私達広報紙の役割もこうありたいと提案され全員が賛同、この名前に決まったと記憶しております。限られた紙面割構成はどうあるべきか、仲間と何度も推敲したことが懐かしいです。なかでも大変だったのは、支部となり初の 2004 年の産業カウンセリング全国研究大会仙台開催でした。全国から 860 名超の方が集い、その全体会、各分科会、交流会の広報取材でした。これまで継続発行出来たのは、多くの会員の皆さんの支えがあったらと感謝いたしております。

今後、ホームページに移行されても各地域の生の声をアクティブに取り上げ、会員に愛され続ける支部ホームページであつて欲しいと切に願っております。



「海つばめ」最終号によせて

東北支部 広報部長／菊池 規子

産業カウンセラーの試験に合格し協会に加入後、最初に届いた「海つばめ」が 2007 年 11 月発行の 27 号でした。入会したばかりで、どんな人がいて、どんな活動しているのか？まったくわからない状況で、送られてきた「海つばめ」が協会の活動や会員の方々の声を知る唯一の手段でした。その頃の「海つばめ」には、さくらんぼの飾りがついていたたり、リボンで縁取りしたりと、広報部の方々の想いが伝わるような冊子でした。届くと、あたたかい気持ちになったのを覚えています。



ご縁があり「海つばめ」の編集にかかわることになり、まさか最終号の担当になるとは思ってもみませんでした。手元にある、過去の「海つばめ」をめくりながら、歴代の広報部の方々がいろいろ知恵を絞り、工夫して、編集して発行してきたことが感じとれます。時代の流れとともに、情報提供の場が紙ベースからリアルタイムな Web での情報提供へと変化し、今回が最後の発行のとなりました。この場をお借りして、歴代の支部長・広報部長・その他「海つばめ」の編集にかかわっていただいた会員の方、そしてご覧いただいている会員の皆様、ありがとうございました。

今後は、メールマガジン・webでの情報発信になりますが、引き続きよろしくお願致します。





※画像加工の都合によるサイズ不揃いはご容赦下さい

創刊号からの表紙の変遷、いかがでしたか。季節の風景や名所・まつりの写真で、東北の豊かさを感じることもありました。今後はホームページ・メールマガジン・facebook をご覧ください。

Here's a heartfelt message just for you

sea swallow

海つばめ ありがとう

みなさんからのメッセージ

2005年頃でしょうか、当時
広報部長だった遠藤さんが
忙しくされていたのが思い
出されます。情報提供の在
り方を築いていただいたと
思っております。ありがと
うございました。

上神谷まゆみさん

長年楽しみにしていた支部機関誌が
廃刊となり寂しく感じます。自己研鑽に
繋がる貴重な情報と心の支えとなっ
ておりました。産業カウンセラーとし
ての役割、そしてその重要性を教え
てくれた貴重な機関誌でした。これ
まで貴機関誌から学んだ事を大切
にして、今後も研鑽を積んでい
きたいと思っております。ありが
うございました。

岩手M.Kさん

みなさまお忙しいなか
心温まるメッセージを
ありがとうございました

長く東北の活動を広報して
いただきました。この冊子に
掲載していただけるような取
り組みをすることが、自分
が社会貢献をしているとい
う、一つの指標となってい
たように感じられます。変
わりゆくのは淋しいです
が、いままでありがとうございました。

ももぶたじゅんじゅんさん

広報部の副部長を務めさせて
いただいたことがございます。
当時は3ヶ月に一度の発行
でしたが、原稿締め切り前
は部長と夜遅くまで作業に
追われ、どこぞの編集者気
分を味わえました。その時
は本当に焦って作業してお
りましたが、今では楽しい
思い出です。在任中は編集
後記を担当させていただ
いたこと、今も使用してく
ださっている「海つばめ」
のロゴを作成したことが
私の密かな自慢であり、
東日本大震災支援活動
についての記事を多く
掲載していただいたこと
が担当として大変有難
かったです。

S. Oさん

時代の流れに柔軟に対応し
手段が変化しても「海つ
ばめ」から心の学びの
継続の大切さを気づか
せて頂いたことは私
の中で不変です。20
年余の長きに渡り
発行にご尽力された
歴代の広報の皆様、
ありがとうございました。

けんzyさん

海つばめの由来

「海つばめ」という名前を選んだ背景には、ロシアの作家ゴーリキーの散文詩『海燕の歌』が深く影響しています。この詩には、海燕が雲と海の間を誇らしげに飛び、その鋭い鳴き声が雲を喜ばせる場面が描かれています。さらに、海燕は灰色の海の上を唯一勇敢に自由に飛び回る鳥として描かれており、その姿はまさに自由と勇気の象徴です。

広報部としても、この海燕のように誇らしく、勇敢に、そして自由に情報を発信したいという強い思いを込めて、この名前を選びました。このネーミングには、先輩たちの深い思いや願いが込められていると感じます。その想いを胸に、私たちもまた、海燕のように果敢に飛び立ち、広く世界にメッセージを届けていきたいと思い今日まで活動してきました。

感謝しかありません。長い間のご発行、ありがとうございます。そして、ご苦勞様でした。私はただ眺めているだけでしたが、会員の皆さんの活躍を見るたびに、自分の気持ちが奮い立ちました。コロナ禍の影響で、様々な活動が見直されつつあります。このような変化も「時代」なのかな、と寂しく感じますが、今後も積極的に情報を収集し続けたいと思います。本当にありがとうございました。

岩手在住RA さん

海つばめにこれまで携わって来られた皆様に敬意と感謝をお伝えします。支部での取り組みや編集に関わった皆様の何気ない一言から、気づきや示唆、親しみを感じさせて頂いておりました。誌面という媒体も不思議な魅力があります。すぐには読めなくても、手元に置いておき、時間が有るときにじっくり読むという読み物としての魅力です。時代も変わり、学び方や情報の送受信の方法に変化が起きていることも理解し肌で感じてはいますが… これまで有難うございました。お疲れ様です。

岩手のとらこさん

手元にある最初の海つばめは、2008年、手作り感いっぱいさくらんぼ柄の表紙でした。いつも楽しく読ませていただき、歴代広報部のみなさまに感謝申し上げます。これからの広報にも期待しています！

さわさん

海つばめ、東北支部の広報誌。他支部から来た私にも支部の情勢を知らせてくれた。支部活動に携われれば、誰でもわかるその大変さ。海つばめの旅立ちに別れとともにねぎらいを。

高橋さん

秋田にいと支部との一体感が少なく数年に1度盛岡や仙台に足を運んでいましたが、「海つばめ」は数少ない東北とのつながりだったと思うので廃刊は残念です。他の方法で支部会員同士がつながる企画を期待しています。

渡部昌平さん

今日も、つばめが、やってきた。何のことはない、海つばめが届いた。毎回私はそう思っていた。パソコンが苦手な私だが、ただの、一会員ではあるが、海つばめを、楽しみにしていた。8月で終了。これから、つばめは戻ってこない。何の役にも立ったことのない私だが海つばめ終了は残念。これからは、苦手のパソコンを頑張るか？なるようになるさ。海つばめが大好きだった者の独り言。ありがとうの言葉を添えて。

花の山形から 遠藤さん

海つばめ発行に携わる方々、ご苦勞様でした。16年前産業カウンセラー取得時にお世話になった講師の方には、本当に丁寧に指導いただいて感謝、また、当時の集りでの青森支部の役員と楽しい時間も懐かしい思い出を、海つばめを通して拝見しました。今後も、協会の発展をお祈り申し上げます。

田名部 泰夫さん

「海つばめ」の継続的な発行、大変お疲れ様でした。毎回気持ちのこもった文面で、言葉に何度も助けられ・元気を頂き、ありがとうございました。今後は風のある海を、翼を不規則に羽ばたきながら、海面近くを歩く様に寄り添って、私も前進したいと思います。

べごっこさん

2002年より創刊して本日まで、1,500余名の東北支部の皆様にお届けしてきた「うみつばめ」今回で、その役割を終えたとお伺いしまして、私は今、そのお知らせにも寂しさを感じています。刊行開始以来、本日まで、東北の21世紀は決して穏やかな時の流れではなかったようにも思います、未曾有の大震災、疫病、経済不安が続く中、人のこころを支援する支部会員さんの活動を取材し記事に仕立て、一人でも多くの方にその活動の尊さをお伝えたい、そんな思いが、海つばめの記事に散りばめられていたように思われます。うみつばめはその役割に終止符を打つこととなりますが、それは東北支部の新たな一歩を踏み出す為の偉大な決断と捉え、希望と感謝の気持ちで受け止めたいと思います。最後に、これまでの多くの皆様の支えと、ご尽力に対し心からの感謝を申し上げます。長い間、本当にお疲れ様でした、そしてありがとうございました。

2021年度広報部担当 小田島 邦彦 さん

支部の活動や会員の方の想いがつまっている「海つばめ」は驚いたり、感心したり、励まされたりと私にとって貴重な情報源でした。長い間、愛情を注ぎながら執筆等、ご尽力いただいたすべての方に感謝申し上げます。

ryokoさん

時代の流れとは言え、終了になるのは、やはりさびしいですね。これまで、海つばめの編集に携わった多くの関係者のみなさまに、心より感謝申し上げます。長い間、ありがとうございました。

太白のデラちゃんさん

ホームページに産業カウンセラー・キャリアコンサルタント資格取得後の、活動目標・研鑽目標を設定する道標として、会員学習ロードマップが掲示されています。それぞれの分野で活躍している会員の方々がどのような歩みをしているのか、気になるところですよ！

84号では現役で活動されている『登録カウンセラー』の方々のお声を掲載しました。

最終号となる今回はそのほかの分野で活躍している方に、思いを寄せていただきました。

シニア産業カウンセラー

岩手県／藤村七美

私は「海つばめ」が誕生した年の春、2002年に産業カウンセラーの資格を取得し、フリーランスとして活動を始めました。2004年は東北支部の会員が一致団結し、第34回全国大会を仙台で行うことができました。手作りのおもてなしをしたことが皆さんに喜んでいただけ、司会者として感動し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。この時「海つばめ」は、その様子を広く伝えてくれました。2005年は北東北に初めて養成講座が開講し、地元盛岡で「職場に一人でも多くの産業カウンセラーを！」を目標に、当時の指導者の皆さんと共に養成講座に携わりました。

2007年夏にはキャリアコンサルタント、秋にシニア産業カウンセラーの資格を取得しました。会員の皆さんの中には、キャリアの資格があればシニアはいらないと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、経験上シニアの学びをしなければ、今の仕事先企業での支援はできなかつたと思います。試験内容も重なる部分が多かったので、夏から秋にかけては、重ならない部分（精神医学やメンタルヘルス等）を勉強するなどして臨みました。当時は研修案内や東北支部の情報などもインターネットではなく「海つばめ」が中心でしたので本部の冊子と共に隅々読んだ記憶があります。今は、知りたい情報はインターネットがすべて教えてくれます。が、当時の東北支部の先輩方や各県運営部の皆はどんな活動をしているのか等、郵便で届く「海つばめ」がとても楽しみでした。ありがとうございました。

キャリアコンサルタント養成講習指導者

宮城県／氏川弘幸

2016年4月「国家資格」となったキャリアコンサルタント。受験要件となる「養成講習」は現在24期となり、東北支部ではこれまで440人の方が受講。私は、2017年度後半から講習に携わり、300人以上の方と一緒に学んできました。

一番困ったことは、名前を覚えることが苦手で顔と一致させるのにいつも四苦八苦（現在も変わらず……）。修了後、合格の報をいただくのと、さらに合格後受講義務となっている更新講習で再会できるのが何よりの楽しみです。研鑽を重ね一人前になっている方々を見ると、自分もさらに学ばねばいつも刺激を受けます。

協会の養成講習は、当初から試験合格目的ではなく、合格時にキャリアコンサルタントとしてスタートにたてる人の育成を目指してきています。他団体の一部には試験合格を目的としているところもあり、残念なことに資格を取っても実務ができず評価を下げている実態も見受けられます。競合団体が多く、受講者確保に苦戦していますが、「相談ができるキャリアコンサルタント」の育成を継承してきたいと思います。

産業カウンセラー実技指導者

山形県／齋藤里紗

私が実技指導者を目指した理由は、職場でも中堅職員となり、よりよい職場環境を築くスキルを身につけたいと思ったからです。そのため、カウンセリング及びファシリテーション力向上の方法を模索していた際に、実技指導者の募集があり、応募しました。

その後、修習生になってからは主に①オンラインでの集合研修、②養成講座の観察実習に参加しました。①は全国各地の同期の方々とオンラインでセッションを中心としたカウンセリング力とファシリテーション力向上の研修を受講しました。②は対面教室やオンライン教室にお邪魔し、指導者の方の実際の指導の様子を拝見しました。

たくさん悩みながらではありましたが、これまで関わってくださった皆様、そして家族の協力もあり、無事に実技指導者になることができ、とても感謝しております。これからも実技指導者として邁進してまいります。



東北支部認定インストラクター

宮城県/Y

産業カウンセラーを学ぶ皆さんの中には、資格取得の後に学んだことをどう活かしていこうか、迷われている方もいらっしゃると思います。斯くいう私も、資格取得後は多少のエッセンスを日常業務で役立てる程度で、「資格を活かしている」という実感は持てずにいました。

もともと企業内研修講師の仕事はしていても、教えるのはあくまで企業内業務習熟のためのもの。しかし研修講師として働く中で、後輩講師や研修受講生から人間関係やストレスに関する相談を受ける機会が増え、次第に「将来は人間関係構築やメンタルヘルスの研修をしてみたい」と思うようになりました。ですが、すぐに行動を起こせただけではありません。「この程度の知識で講師が務まるわけがない」という不安が壁となって立ちばだかつていました。

そんな折、仕事を通じて新しい出会いがあり（A 澤さん、その節はお世話になりました）、このタイミングでの出会いは、頃合いなのではという光明に変わったのです。認定講師になるには研修受講、課題作成、協会の方々の前での講義実践など、超えるべきハードルはあります。認定を経てからも、ご依頼主様の要望に応えるため準備をする苦労もあります。しかし、研修に参加して下さった方からの感謝の声はもちろん、「達成感」と「年齢を重ねても成長できるという実感」は、産業カウンセラーにとって大きな価値があります。私にとって新たな出会いがきっかけになったように、拙稿が産業カウンセラーの皆様の一歩を踏み出すきっかけになれば幸いです。



専門性育成プログラム（JAICO 認定）には『電話相談員（JAICO 認定）』『ストレスチェックアドバイザー（JAICO 認定）』もあります。しかし残念ながら、現在東北支部ではこれらの認定を受けて活動している方はおりません。

他の専門育成プログラムに比べ、開始してから年数が浅いことや、東北支部での開催が少ないことも影響しています。とはいえ、着実に研修を積んできている方々もいらっしゃると思いますので、東北支部会員で認定・登録できる方もまもなくではないでしょうか！

毎年『世界自殺予防デー』前後に行われる「働く人の電話相談室」にご協力いただいております会員の方々には、ぜひ『電話相談員（JAICO 認定）』の学びを深めていただきたいと思います。

『ストレスチェックアドバイザー（JAICO 認定）』は、カウンセリング力はもちろん、プレゼンテーション力、ファシリテーション力、コンサルテーション力が必要で、それらを目的としたプログラムのため、自己研鑽に取り組む研修としてお勧めします。東北支部での開催は少ないかもしれませんが、オンライン開催もありますので是非トライしてみてください。



東北支部認定講師の佐々木三鈴さんから、自己研鑽に励む会員の皆様へ**笑い文字**でエールをいただきました！
笑い文字は満面の笑顔を渡す筆文字で、笑顔を書いて渡すことによって、感謝や喜びを伝えるそうです。
頑張っている会員の皆様にエールが届きますように！

東北支部や秋田県運営部ではゲートキーパー研修を行っていますが、 『ゲートキーパー』って知っていますか？

「ゲートキーパー」とは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。東北では秋田県が先駆けてゲートキーパー養成研修を行ってきましたので、成り立ちについて、養成講座を担当されている方からお話を聞いてみました。

ゲートキーパーの成り立ちと秋田県運営部

地区活動部秋田県運営部部长／寺田誠

2007年（平成19）6月に内閣府により、自殺総合対策大綱の重点施策として、ゲートキーパーの養成を掲げていました。養成の対象者は、医師、教師、保健師、看護師、ケアマネージャー、民生委員、各種の相談窓口担当者などで、地域で多くの人と交流する機会が多い人に研修を実施していたようです。世界保健機関（WHO）や、多くの国々で人材を養成し、自殺防止につなげた実績があるということでした。ゲートキーパーは、専門の資格や免許を得て就く職業ではなく、地方公共団体等が実施している養成研修会を受講し、専門知識や対処方法を学んだうえで、身近な環境で自殺対策を支援する啓発活動を担うものです。研修には、講演会などを中心にした一般市民向けのもと、自殺対策の専門的な知識の向上を図るためのものがあります。秋田県では、県内各地で保健所主導による県内各地でゲートキーパー養成講座研修を実施していました。

秋田県運営部では2009年から県の補助金事業を受託しており、この事業の中にゲートキーパー養成講座を2016年度から計画し、実施しています。同時に、協会の人脈から2016年と2017年にNPO法人日本ゲートキーパー協会での養成講座を会員向けに企画し、研修を担当できる人材確保を図りました。この事業は現在まで、年4件ほどのペースで事業所や各種団体、学校などに養成講座を実施、継続しております。

社会的にもそれなりに認知されてきたとはいえ、積極的に受講したい事業所はまだ少なく、実施する事業所等の意欲や熱意によって、内容を精査してお伝えすることもあります。また、実施事業所等への営業活動も必要となりますので、これまでの県運営部スタッフの苦労も並大抵ではなかったと思います。しかし、ゲートキーパーの養成は、現状の自殺率など

鑑みるに必要不可欠な対策だと思いますので、スタッフのモチベーションを維持しつつ、今後も継続していく所存です。

現在担当している講師は限られていますので、支部認定講師で意欲のある方には、支部での研修や秋田での講習を積極的に受講いただき、今後の養成講座をぜひ担ってほしいと思います。

ゲートキーパー養成講座担当 秋田県／小西協平

秋田県運営部では、20年ほど前からカウンセリングの場と社会貢献活動を求めて無料相談会を運営している。15年ほど前から自殺対策事業に関して秋田県からの補助団体になり、毎月1回県内3か所で『こころの健康づくり無料相談会』を開催している。

秋田県自殺対策補助の人材育成事業として、平成15・16年頃にゲートキーパー養成研修を開催し、以降ゲートキーパーへの関心が深まっていった。並行して秋田県が地域の民生・児童委員、連絡員などを対象に養成講座・育成を本格化。秋田県運営部は職域向けに実施してみようと計画し、年に数回ゲートキーパー養成講座を行っている。

この度ゲートキーパー経験談の依頼があったが、ゲートキーパーはカウンセリングの実践と同じであると考え。ゲートキーパーについて学んだことは、カウンセリングの実践に役立っている。私の場合は上記無料相談会の相談員である。

秋田県ではゲートキーパーを昨年度で1万人を育成、今後も活動継続する。県運営部も少しでもお手伝いできればと、ゲートキーパー養成講座の実施により、職域での円滑な意思疎通の手助けと自殺予防を目指している。

この文章を読んだ会員の皆さんは、全員ゲートキーパー！ゲートキーパーに認定書・修了書はありません。一度どんな内容の講座なのか参加してみても？実践あるのみ！

第 22 回 定時支部総会報告

令和 6 年 5 月 25 日（土）ハ－ネル仙台「松島」



今年も第 22 回（2024 年度）東北支部定時支部総会が開催されました。今回は二部構成で、第一部は前年度の報告と今年度の計画、協会からのお知らせと質疑応答、そして第二部は基調講演でした。第一部はリアルとオンラインのハイブリット方式。当初、音声トラブル等ありましたが、臨機応変な対応により、予定通りに進行、活発な意見交換が行われ、無事終了いたしました。経費削減・ペーパーレス化の流れの中で、いかに会員相互の情報交換のクオリティを担保していくか、というのが今後の大きな課題と考えられます。なお、第一部の詳細につきましては、支部 HP に掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

第二部 基調講演

「先生と呼ばないで」という言葉に象徴される、その気さくなお人柄とは対照的に、ご自身がリクルート勤務時代に目の当たりにした、社内の激しい昇進競争の体験談はとても印象的でした。一般社員・職員だけでなく、経営者・管理職側からの視点、また諸外国と比較した日本企業の特徴など、さまざまなデータに基づき、より広い視点からの説明は、非常に説得力がありました。私たち個々人のキャリア形成についてはもちろんですが、日本企業全体の今後についても、非常に考えさせられる内容でした。ここでは紹介しきれないほど盛りだくさんな内容でしたが、紙面の都合上、特に印象に残ったポイントに絞って、ご紹介いたします。詳しい内容を知りたい方はぜひ、リアルで参加した会員から感想を聞いてみてください。

- **ジョブ型とメンバーシップ型**：アメリカのジョブ型雇用に対し、日本はメンバーシップ型と呼ばれている。日本の従来の終身雇用・年功序列は、賃金と生産性の乖離が大きく非合理的と言われている。アメリカではどの会社にも共通して必要とされる職務があり、転職してもすぐ専門性を生かして働くことができるため、賃金と生産性の乖離が小さい。そのため、日本はもっと欧米のジョブ型を見習うべき、という批判を受けて来た。しかし本当にそうであろうか？
- **一般的熟練・企業特有的熟練**：ジョブ型では、不特定多数の企業に共通したスキルは身につくが、短期間で転職するため勤続中の生産性には限界がある。一方、日本のメンバーシップ型は、勤続年数が長くなることにより企業特有的のスキル、つまり企業特有的熟練が身につく。このことが日本の生産性の高さを支えてきた。
- **日本の雇用管理の現状と課題**：昨今、日本国内では、働き方の多様化や若者の意識の変化による離職率の高さがニュース等で取り上げられている。しかし、実際のデータを見ると、日本企業の平均勤続年数は 12 年、大企業では 15 年と、決して短くはない。（アメリカの平均勤続年数は約 4 年。）この事から、必ずしも日本型が間違いでジョブ型だけが正しいとは言い切れない。日本型の良さも見直し、それぞれのメリット・デメリットを理解しながら、時代の変化に合わせて今後の雇用管理の在り方を模索していくことが必要であろう。

人的資本経営における 日本企業の 雇用管理



東北大学大学院経済学研究科教授 藤本雅彦氏

広報部スタッフ紹介



産カ 2 年目でわからないことばかりでしたが、海つばめを通じて多くのことを楽しく学ぶことができました。広報部の先輩方に温かいサポートをいただき心から感謝しております。ありがとうございました！
(鈴木奈菜)

資格取得後、協会とのかかわりを持つために広報部の門を叩いたのが始まりでした。素敵な先輩方や仲間と海つばめの制作に関わり、会員の皆様の想いを載せてきました。廃刊になっても個々の想いが広く伝わるよう支部運営に託します。
(鎌田千昭)

毎回楽しみにしていた「海つばめ」、封入作業や編集に関わることができて嬉しかったです。特に 84 号「先生お助け隊」の記事は、たくさんの皆様のご協力をいただき掲載できたことが、非常に感慨深いです。ありがとうございました。
(庄司尋代)

「海つばめ」発送時のカードや切り紙封入のお手伝いに携わるうちに、広報部員になり、9 年間。編集作業を通し、沢山の方にお世話になり助けていただきました。感謝いたします。
(佐藤美喜子)

編 集 後 記



先輩の方々から引き継いできた「海つばめ」も今回の 85 号を持って最終号となりました。これまでの 22 年間、会員の皆様のご協力があったからこそ、続けて発行することができました。ありがとうございます。今回は、最終号ということで、いままでの総括の意味もこめた企画をしました。心にとまる企画がありましたでしょうか？

これからは Web を基本とする情報発信となりますが、会員の皆様に役立つ内容の発信を目指してまいります。

今後ともよろしくお願い致します。(広報部長：菊池規子)

東北支部広報誌 第 85 号

2024年8月15日発行

発行／(一社)日本産業カウンセラー協会
東北支部

〒980-0014

仙台市青葉区本町二丁目 6-15-503 号

電話 (022)715-8114

FAX (022)715-8115

E-mail : toh-office@counselor.or.jp

URL : <http://www.counselor-tohoku.jp/>

